

# もっと知りたい

## 武者小路実篤

地域に残る実篤の足跡

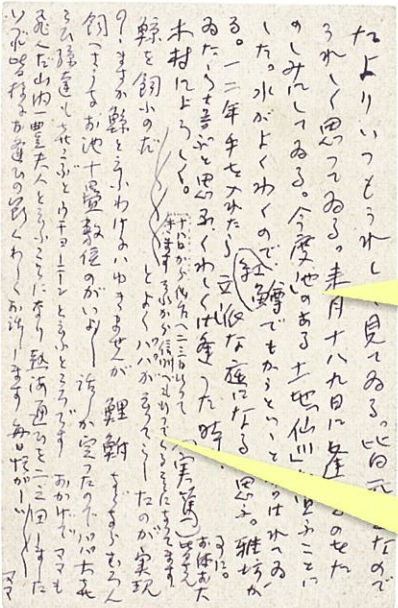
# 実篤公園

実篤公園の歴史をたどってみましょう。

### 住みたいところは……

- ✓水のあるところ
- ✓古い土器が見つかるところ
- ✓土筆の生えるところ

というのが、子どもの頃からの実篤の夢。  
 終の住処とした仙川の地は、偶然にもその夢をすべてかなえられるところでした。



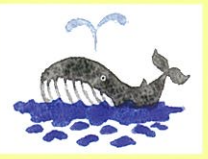
実篤・安子夫人から娘・孫にあてたハガキ  
 昭和29(1954)年4月15日

### 仙川の地を購入することになり、大喜び!

昭和30(1955)年、70歳の実篤は、調布市入間町荻野(現・若葉町)の地を人から紹介されて気に入り、三鷹市牟礼から移り住みました。最寄駅の名前をとって「仙川の家」と呼び、90歳で亡くなるまでの20年間を過ごしました。

…今度池のある土地「仙川」を買うことにした。水がよくわくので、紅鱒でもかうといいと言われている。一、二年手を入れたら立派な庭になると思う。…〈実篤〉

鯨を飼うのだ飼うのだ飼うのだ飼うのだとよくパパ(実篤のこと)が言ってきたのが実現? まさか鯨と言うわけにはゆきませんが鯉、鮎などならむしろ飼えそうなお池十畳敷位のがいよいよ話しが突ったのでパパ大喜び。孫達も喜びぶとウチヨーテンと言うところです…〈ママ(安子夫人のこと)〉



### 実篤公園から見つかった縄文土器のかけら

大昔から人間は、水のあるところのそばに住みます。実篤公園の周りからも、縄文時代の家のあとや、土偶・土器・石器のかけらが見つかっています。

実篤が暮らしていたときも、お孫さんがよく庭で土器のかけらを見つけました。自分ではなかなか見つけられない実篤は、とてもうらやましがったそうです。

公園として開園するときに調査して、一帯は「実篤公園遺跡」と名づけられました。



昭和31(1956)年 上の池のほとりで孫たちと

